有松・桶狭間お宝カルテ

戦のみち	W-01-1	お宝名称	高根山（たかねやま）
所 在 地	桶狭間高根		

山頂で解説を受けるツアー参加者

ここの標高は約 54m で有松地域では最も高いところです。
桶狭間の戦いでは今川軍の最前線部隊として**松井宗信**（まつい　むねのぶ）の軍勢が、鳴海方面の**善照寺砦**（ぜんしょうじとりで）（信長の本陣此処にありと見せかけた砦）、**中島砦**（なかじまとりで）の動勢をうかがう位置として陣を張った所です。そして織田・今川両軍の布陣や進軍ルートを示す解説板が設置されています。

有松神社と満開の桜

桶狭間の戦いの史跡を案内するうえで重要な地点であります。

山頂には有松神社が建っており戦没者慰霊が祀られており記念碑山として古くからしられています。

有松・桶狭間お宝カルテ

戦のみち	W-01-2	お宝名称	高根山(たかねやま)から善照寺砦(ぜんしょうじとりで)への眺望(ちょうぼう)
所在地	桶狭間高根		

高根山は当時の桶狭間村で一番高い「**高嶺(たかみね)(高根)**」から名付けられたものです。桶狭間合の戦い（永禄３年：1560）で、今川軍の**松井宗信**隊が高根山一帯に陣取って、鳴海方面の織田軍に備えていました。　一方、織田信長軍は、今川陣営の**根古屋城**（鳴海城）を取り囲む砦の一つである**善照寺砦**を今川軍への進軍の拠点として軍勢を集結させていました。

昭和初期までは、高根山から善照寺砦をよく見通すことが出来ましたが、現在は善照寺砦跡付近に多くの住宅が出来ため見分け難くなっています。　とは言えども、目を凝らせば、北西方向に善照寺砦跡を望むことが出来ます。そして、その向こうには**名古屋の中心市街**を遠望出来ますし　また、織田信長の居城であった**稲葉山城**（岐阜城）も気象条件のよい日には、ＪＲタワー方向に望むことも出来ると言われており絶好のビューポイントです。

高根山（松井陣地）から善照寺砦方面を望む

有松・桶狭間お宝カルテ

戦のみち	W-01-3	お宝名称	幕山（まくやま）
所在地	有松町大字桶狭間字幕山		

おけはざま山より幕山を望む

幕山よりおけはざま山方面を望む

「桶狭間合戦の大略」に「**松井宗信**（まついむねのぶ）が桶狭間の小字**高根**（前出のW-01高根山）と**幕山**の高地に仮陣営を置き、**大高・鳴海**方面を監視した跡で、幕山の名は陣所に「幕を張りたるをもって付けられた」と説明されています。

弘化二年(1845)の**六ヶ村図**には幕山と記載してあります。

現在は住宅地となっていますが、地形は当時の面影を残していて今川軍先陣隊の重要な拠点でした。

有松・桶狭間お宝カルテ

戦のみち	W-01-4	お宝名称	巻山（まきやま）
所在地	桶狭間巻山		

　おけはざま山にある**今川義元仮本陣**の守護と、**大高・鳴海**方面の敵情監視のため**井伊直盛**（いい　なおもり）が今川軍先陣隊を置いた跡で、織田勢に包囲されたことから“巻山”と名付けられました。

　天明元年（1781）**桶廻間村絵図**と「天保１２年（1841）５月**桶廻間村絵図**に“**まき山**”の記載があります。

太平洋戦争中、巻山の桶狭間陣地に**第１６照空中隊**（高射砲陣地）が配備されておりました。

　現在は小学校や住宅が建っていますが、一部面影を残しています。

巻山にある二つ池

おけはざま山より桶狭間小学校を望む

有松・桶狭間お宝カルテ

戦のみち	W-02-1	お宝名称	かまがたに 釜ヶ谷
所在地	桜花学園名古屋短期大学構内		

長池と言う池が在りましたが、現在は駐車場となっています

大学構内にある信長坂（しんちょうざか）の碑

信長はこの辺りの坂を駆け上り、今川の本陣に攻め入ったと言われています。

信長が中島砦から密かに、この釜ヶ谷についた時は激しい雨でした。信長はここに潜み、雨の上がる頃合いを見て、これより少し東に上った所に陣を構えていた今川軍の右翼約5百の隊を襲い、敵が逃げ崩れるところ、その後方にある本陣引き所に「輿」（こし）を見つけ義元の所在を確信して一気に攻撃をしたのです。

信長公記（しんちょうこうき）首巻24には、今川義元討死の事と記してありますし、この時の雷雲の様子・戦状の様子等は信長公記から読み解け、ここに立つと当時の情景を追想することができ、史跡資源として評価できるところです。ただ残念なところは近年の宅地化によりその面影が年々消滅していることです。

有松・桶狭間お宝カルテ

戦のみち	W-02-2	お宝名称	はいやま 生山
所在地	桶狭間字生山		

集合住宅が並ぶ生山の北西部（高根山より望む）

永禄3 年（1560）5 月19 日、織田信長は2000 余の軍勢を率いて鳴海の中島砦から干潮の**扇川**（おおぎがわ）沿いに進み**神明**、**天神山**の裏を抜け、**米塚**から**手越川**（てごしがわ）を渡り**生山・武路山**を駆け抜けて**釜ケ谷**に至り桶狭間山の今川軍の右翼を急襲し桶狭間の戦に勝利しました。

わずかに面影が残る生山の北東部斜面

このような史実にもとづいて、生山の地名について「生山（**這山**ともいう）も織田の軍勢が這い登ったという話から名づけられたものと伝えられている」（有松町史 昭和29 年）

天保12 年(1841)5 月**桶狭間絵図**に「**はへ山**」と記述されています。

現在は殆んど住宅地となっています。

有松・桶狭間お宝カルテ

戦のみち	W-02-3	お宝名称	武路（たけじ）
所在地	武路町桶狭間北２丁目		

昭和初期の武路釜ヶ谷

七ツ塚の近くにある武路公園

生山（はいやま）を這（は）い上がり釜ヶ谷の山合いを潜り抜け、織田信長軍が今川義元仮本陣を急襲した進軍ルートです。
多くの武者が通過したので武路山と名付けられました。

寛政 13 年(1801)「**写桶狭間古戦場図**」、天保 12 年(1841)**桶狭間絵図**に**武路山**、**武路**と記載されています。
現在、町内には愛知用水が通り、このあたり一帯は住宅地となっています。

有松・桶狭間お宝カルテ

戦のみち	W-03	お宝名称	こせんじょうあとてんぼうちてん 古戦場跡展望地点
所在地	桶狭間武路町内　愛知用水沿い		

昭和初期のおけはざま山
（北方より望む）

愛知用水からおけはざま山方面を望む

おけはざま山から今川本陣があったとする古戦場周辺は、住宅が立ち並び辺り一体を展望することは難しい状況です。が、この地点は愛知用水の堤防上であり、ここから南方を展望すると比較的視野を遮るものが少なく、左手には**おけはざま山の西斜面**、正面に**古戦場公園**、その後方には**大池・長福寺**方面、そして右遠方には**神明社の森**、さらに右手には今川前衛隊が陣取った**巻山・幕山**が一望できます。

ここに立てば合戦当時の両軍の布陣状況とその動きが眼前に広がり、当時の戦況を今見ているかのような感覚に成れる所から、古戦場の来訪者に**合戦の様子を体感していただける最適なポイント**と言えます。
また、堤防下には**武路公園、七つ塚**があり、車両の通過も少なく開放感に溢れた素敵なスポットです。

有松・桶狭間お宝カルテ

戦のみち	W-04-1	お宝名称	三地蔵（さんじぞう）
所在地	慈雲寺、長福寺、地蔵池		

地蔵さんは本来、**佛教六道**（三悪道：地獄・餓鬼・畜生と　三善道：修羅・人間・天道）を民衆に教える**六地蔵**信仰から祀られていた佛であったのです。
鎌倉時代頃からは日本の民間信仰である　**道祖神・石神・庚申**と同様に、**村内の安全と道標**を兼ねて路傍又は辻に祀られるようになりました。

桶狭間の地蔵さんも昔は村への入り口辻にあり**南、中、北の三町**は江戸時代末期それぞれの地区内にある地蔵さんをお祀りしていました。また、**上ノ山の霊園**には前出の六地蔵さんもお祀りしてあります。南町は**慈雲寺**門前（1945 年までは現在の南町公会堂横）、中町は**長福寺**、北町は**地蔵池**北端に祀ってあり、**権平童話**と関係しており、これらは名古屋市の童話集に載っています。

有松・桶狭間お宝カルテ

戦のみち	W-04-2	お宝名称	水面に映え地蔵池の桜（みずもはじぞういけさくら）
所在地	桶狭間北２丁目		

春の地蔵池

地蔵池（周囲約 300m 強、面積約 5500 ㎡）は、**寛文村々覚書**：寛文 11 年（1671 年）に「**雨池九ヶ所**」のうち有松道池として記載されている由緒ある池です。 池の周辺には、約 30 数本の桜が植えられており樹齢は数十年以上といわれ、毎春の桜の開花時期には、近所の人々が静寂の中、三々五々と散策する姿が見られます。

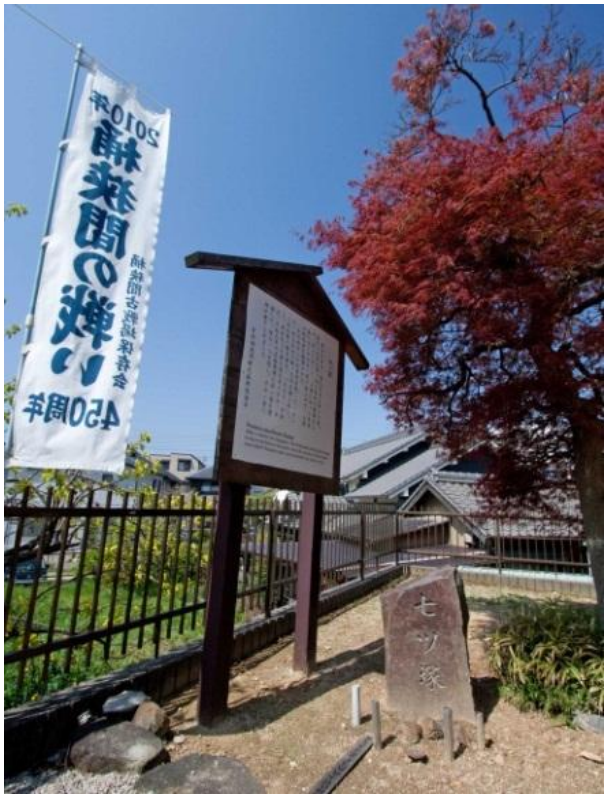
池の周辺は護岸工事と水難防止用の金網があり、これが情緒を少し損ねますが、歴史ある池の水面に映える桜は一見の価値があります。
この池に因んで民話があります。
“その昔、お百姓の**ごんべいさん**が孫をつれて歩いていたところ、大鷲があらわれて孫をさらってしまいました。**ごんべいさん**は毎日毎日孫の姿を求めて歩いていたが、とうとう疲れのあまり亡くなってしまったのです。これを聞いた村人が二人を哀れ偲び小さな祠（ほこら）を作った”ということです。

有松・桶狭間お宝カルテ

戦のみち	W-05	お宝名称	ななつづか 七ツ塚
所在地	桶狭間北二丁目		

桶狭間の戦いでは約3000名余の死者が出たと伝えられています。

戦死者を弔うため当時七つの塚が造られと言われ、その根拠として今も残っている**地引帳**（ちびきちょう）には、昔あったと思われる所に塚の存在が明記されています。



住宅の真ん中に残る塚

現存の塚は住宅地の真中に在って、しっくりしない環境ですが、昭和60年代の区画整理事業によって、昔あった塚の位置に　一つにまとめられ残されたものです。

有松・桶狭間お宝カルテ

戦のみち	W-06	お宝名称	おけはざま山
所在地	桶狭間北三丁目及び豊明市		

ここは丁度、名古屋市と豊明市の境界にあって、**沓掛城**（くつかけじょう）を出て**大高城**（おおだかじょう）に向かう**今川義元**がこの地点で休息したとされる場所です。頂上の標高は 64.9m ありますが、当時その辺りには道もなく急勾配で人馬が登ることは困難でもあったので、今川軍の前衛隊が布陣する**高根山**（たかねやま）、**幕山**（まくやま）、**巻山**（まきやま）が一望できる西斜面の中腹辺りに今川本陣が置かれたと思われます。

大池（南方）からおけはざま山を望む

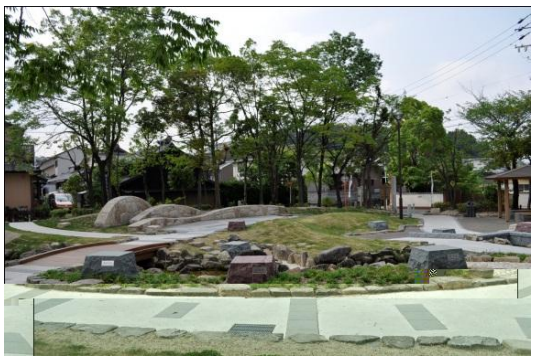
おけはざま山から幕山方向を見る

有松・桶狭間お宝カルテ

戦のみち	W-07-1	お宝名称	おけはざまこせんじょうこうえん 桶狭間古戦場公園（田楽坪）
所在地	桶狭間北３丁目		

信長公記（しんちょうこうき）で言われる、桶狭間の戦いの中心地で当時**田楽坪**と呼ばれ、今川義元が討たれた所です。この辺り一帯は古くより湿田であり、いわゆる信長公記の「**・・・・おけはざまという所ははざまくてみ深田足入れ高みひきみ茂り節所と言うこと限りなし**」との記述と合致しています。又この地　**深田**（（ふかだ）田楽坪と村絵図に記録あり）で壮絶な戦いがあった事も信長公記から窺がうことができます。桶狭間の戦いの重要な史跡として、高く評価されるところです。

整備後の公園の様子



ジオラマ公園

信長・義元の銅像

この公園は昭和 63 年(1988)に土地区画整理事業で整備され、桶狭間の戦にゆかりある伝説　**馬繋ぎ**（うまつなぎ）**のねずの木・駿公墓碣**（すんこうぼけつ）**・首洗いの泉**が公園内に移されました。また、平成２２年(2010 年)の桶狭間の戦い 450 年を記念して、地域住民・企業・団体など多くの方々からの寄附を募り、桶狭間古戦場保存会が**信長・義元の銅像**：**近世の曙**　を建立しました。
それに合わせて名古屋市により合戦の様子を示すジオラマ古戦場公園に整備され、大変見ごたえある姿に生まれ変わりました。
建立された二体の銅像はこの地域を末永く見守ってくれています。

有松・桶狭間お宝カルテ

戦のみち	W-07-2	お宝名称	桶狭間の戦い（おけはざま たたか）
所在地	桶狭間地域内		

桶狭間の戦いは永禄3年(1560)5月19日、**尾張の領主織田信長**が、わずか2000の兵で**駿河・遠江・三河の領主の今川義元**軍4万5千（人数については諸説あり）の大軍を打ち破ったという戦いです。長い戦国の時代から近世の時代への幕を開けた、日本史上特筆すべき戦いであったのです。

「桶狭間之戦（たたかい）」　楊州（ようしゅう）　周延（ちかのぶ）　画
天保９年～大正元年（１８３８～１９１２）

右図は、戦いの時今川義元が通って来た路（赤色）、織田信長が桶狭間へ攻め入った路（青色）、そして、若き徳川家康が大高城へ兵糧を入れた路（黄色）を示します。

有松・桶狭間お宝カルテ

戦のみち	W-07-３	お宝名称	漢詩碑：桶狭間を過ぐ
所在地	桶狭間北３丁目		

大田錦城（おおた・きんじょう）

江戸後期の儒学者・詩人で名は**元貞**（もとさだ）。加賀の人。　文化 8 年（1811 年）ごろ、**三河吉田藩**儒に仕官しました。和漢の諸儒の説を広く研究し折衷学派を大成致しました。文政三年（1820 年）旅の途中桶狭間古戦場を訪ね、往時を偲んで詠まれたものです。詩吟界では全国的に古くから吟じられています。

桶狭間古戦場公園に建立された漢詩碑です

桶狭間を過ぐ

詩吟　　作者・大田錦城

荒原古を弔う古墳の前

戦い克って将駆る何ぞ全きを得ん

快風雨を吹いて昼晦の如し

驚破す奇兵の天より降るかと

有松・桶狭間お宝カルテ

戦のみち	W-08	お宝名称	瀬名氏俊陣地跡（せなうじとしじんちあと）
所在地	桶狭間 304		

藪の面影を残す昔の写真

永禄 3 年(1560)5 月 17 日（合戦の 2 日前)、今川義元の家臣**瀬名伊代守氏俊**（せないよのかみうじとし）隊の約 200 名が先発隊として着陣し、各方面の監視と今川義元の 19 日の昼食時の休息地を設営しました。その時の陣地跡で、東西 8 間(約 15m)・南北 20 間(約 36m)位でした。この史跡も当地が義元公の最期を遂げた所と有力視される所以の一つです。

現在の瀬名氏俊陣地跡

この周辺は**セナ藪**（やぶ）と呼ばれ、竹林の姿で残されてきましたが、昭和 61 年の大池の堤防工事により取り壊され、今は竹林をわずかに残すのみとなりました。

有松・桶狭間お宝カルテ

戦のみち	W-09	お宝名称	長福寺（ちょうふくじ）
所在地	桶狭間 427		

当寺の由来は、今も清水が沸く放生池に近い山中に南朝の落武者が身を隠す如くひっそり暮らしていた頃、下総の国中山より**日観**（にっかん）と言う僧侶が来て、**法華寺**を建て日蓮宗を布教したことに始まります。その後一時廃寺になり、桶狭間の戦いの 22 年前、天文 7 年（1538）現在の寺が**善空南立**（ぜんくうなんりつ）**上人**により天文 7 年（1538）創建されました。

桶狭間の合戦の時、今川勢の労をねぎらうとともに大軍の無事通過を願い、村人の先達となり酒食を供えたと言い伝えられています。又義元に仕えた茶坊主の**林阿弥**（りんあみ）は義元をはじめ武将の首検証をさせられ死罪を許され、後に阿弥陀**如来像**を持参し主君義元の菩提を弔ったと伝えられています。境内には首検証の碑と供養塔があり、本堂には今川義元と松井宗信の木像が安置されています。

また、日観という僧侶は童話の『ごんぎつね』で登場する**岩滑**（やなべ）の殿様（岩滑城主中山時兼）であると語りつがれてもいます。また山門は当時を偲ばせる趣にあふれています。

このように長福寺は史実と伝承がたくさん存在し、他の地域とのつながりも広く、参道と大池は緑と景観に優れています。

有松・桶狭間お宝カルテ

戦のみち	W-10	お宝名称	くらながせがわ 鞍流瀬川
所在地	桶狭間地域		

大池の向こう岸の道路下を鞍流瀬川は流れています

元の名は「井桁川」でありましたが、**桶狭間の戦**の激しさの様が記録（川の流れが朱に染まり鞍が浮き沈み・・・略）にあるように語り伝えられ、永い時が過ぎて、いつしかこの名で呼ばれて今日に至りました。戦いの悲惨さを後の時代に語り伝える川として古戦場ゆかりのひとつです。

橋の名前には川の呼称が見られ、また、**長福寺**（ちょうふくじ）門前には鞍流瀬川の由来の石柱があります。

昭和二十年頃まで、古戦場公園の片隅に泉があり、この水が田楽坪（でんがくつぼ）のねず塚のそばを流れ鞍流瀬川に注いでいました。この清水で「かわにな」が生息し、初夏にはホタルが**田楽坪・大池**に多く乱舞するのが見られたものです。

平成元年（1989）区画整理により、川は暗渠（あんきょ）となりました。2003年より大池周辺で毎年万灯会が行われています

僅かに残る鞍流瀬川が長福寺参道前を流れる

有松・桶狭間お宝カルテ

戦のみち	W-11-1	お宝名称	戦評(せんぴょう)の松(まつ)
所在地	桶狭間 1513		

初代の大松

桶狭間の戦いの当時、ここには大きな松の木がありその下で今川義元軍の先遣隊 **瀬名氏俊**（せな　うじとし）以下将達が集り戦評（軍議）を行った所です。その為よろい掛の松とも言われています。戦いを語るに重要なポイントです。

二代目の松

初代の松は「大松」とも言われておりましたが伊勢湾台風で枯れてしまいました。

二代目は 2007 年に松喰い虫に害され枯れてしまいました。
現在の松は三代目です。

三代目（現在）の松

有松・桶狭間お宝カルテ

戦のみち	W-11-2	お宝名称	十二支目盛時計（じゅうにしめもりどけい）
所在地	桶狭間 1513		

　ＪＡ桶狭間支店敷地内に有りますが、桶狭間の戦さのあった土地らしく一般の数字時計でなく**十二支の文字盤**にしたのが特徴で人目をひくものです。
建築年は 1993 年で高さ 10m 位ありますがとても高く感じる時計台です。

有松・桶狭間お宝カルテ

戦のみち	W-11-3	お宝名称	御料地払い下げ記念碑（ごりょうちはらきねんひ）
所在地	桶狭間 1513		

戦評の松と同じ場所にある**御料地払い下げ記念碑**

高根山（北）から名四国道（山脇）までは尾張藩の山でした。桶狭間の農民は尾張藩の許しを得て**南高根山**のたきぎ等をもらって生活していました(共同の山、入会地)が、**明治維新**以降は御料地となり取り上げられてしまったのです。　そこで村をあげで払い下げの運動をし　明治末頃に村人に払い下げられました。　高根山は桶狭間村が購入し、他の土地は入札により村人に分けられました。

明治末から大正時代には、開墾６６町歩に加えて２０町歩を畑にしました。元々８０町歩の田があったので、倍の広さになり村人は大根と養蚕用の桑畑にし、これで桶狭間の農民は一人前の百姓となり、養蚕のおかげで村は発展したのです。

有松・桶狭間お宝カルテ

戦のみち	W-12	お宝名称	大高道（おおだかみち）（桶狭間道）
所在地	大脇（豊明市）・桶狭間・大高の間		

桶狭間合戦の時、今川義元が**沓掛城**から**大高城**に入ろうとするのに使った道です。　この道がもっとも重要視されたのは、義元公が**奥で行軍**して行くに適した広い道であったと云う事です。また、松平元康が大高城への兵糧入れの際通った道でもあります。

神明社参道前から大高方面へ

近崎道との交差点より西方を望む

道筋としては、**沓掛**より南方に当たる**東浦**（大府市）に至る**東浦道**。この道の途中、**大脇**（豊明市）から西方面に向かう道が**大高・桶狭間道**の出発点です。

これより西方に**桶狭間東池**（石池）があり、池の北側を通り**近崎道・三河道**とも交差して、**神明社参道前**を抜け現在の　刈谷新道・愛知用水路を横切り**文久山**を経由して大高に至るのが**大高道（桶狭間道）**で全長約 10Km です。

現在は一般生活道として存在しています。

有松・桶狭間お宝カルテ

戦のみち	W-13	お宝名称	桶狭間神明社と宝物の酒桶（おけはざましんめいしゃ　ほうもつ　さかおけ）
所在地	桶狭間神明廻間 1520		

　この神社の起源は、桶狭間に**南朝の落武者**（暦応時代：1338 年から 1341 の頃）が住みつき、その人々によって奉祀されたと言われています。

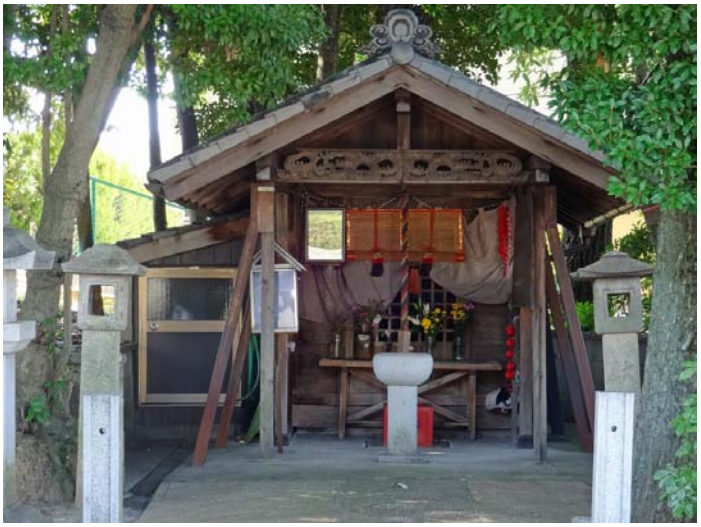
桶狭間の戦いの前に今川義元の家臣、**瀬名伊予守氏俊**が戦勝祈願を行った際お供えしたと言われる奉献酒の桶が神社の宝物として 保存されています。

　神社の森の広さは約 23,000 ㎡あり町内唯一の神社で、 境内には１３の末社が祀られていて、日ごろの参拝者も多く、親しまれていす。

有松・桶狭間お宝カルテ

戦のみち	W-14	お宝名称	庚申堂（こうしんどう）
所在地	桶狭間上の山		

庚申堂は伝承によると**疱瘡**（ほうそう）の大流行した年に時の**庄屋孫作**が、自分の耕地の一角に**庚申塚**を築いて平癒を祈祷したのが始まりで、その後分家した次男の籐八が庚申堂を祀ったと言われています。　またその頃村に庚申講がつくられ長福寺にて庚申待ちが行われました。



初庚申の例祭は江戸代より行われておりとても歴史のあるもので、大正１４年の例祭に余興として相撲・自転車競走・草芝居・青年芝居などが行われ、桶狭間の庚申さんと呼ばれて多くの参拝がありました。太平洋戦争後の祭には他では見られない、景品付餅投げ等が盛大に行われてきました。

注；　庚申塚；「庚申様」を信仰する人々が供養のために建てた石塔や像を納めた堂のことで、道の辻や寺庭などに建てられた。

有松・桶狭間お宝カルテ

戦のみち	W-15	お宝名称	近崎道（ちかさきみち）
所在地	近崎（大府市）～桶狭間・有松の間		

長福寺の東側を北に向かう

東池北角の大高道と近崎道の交差路

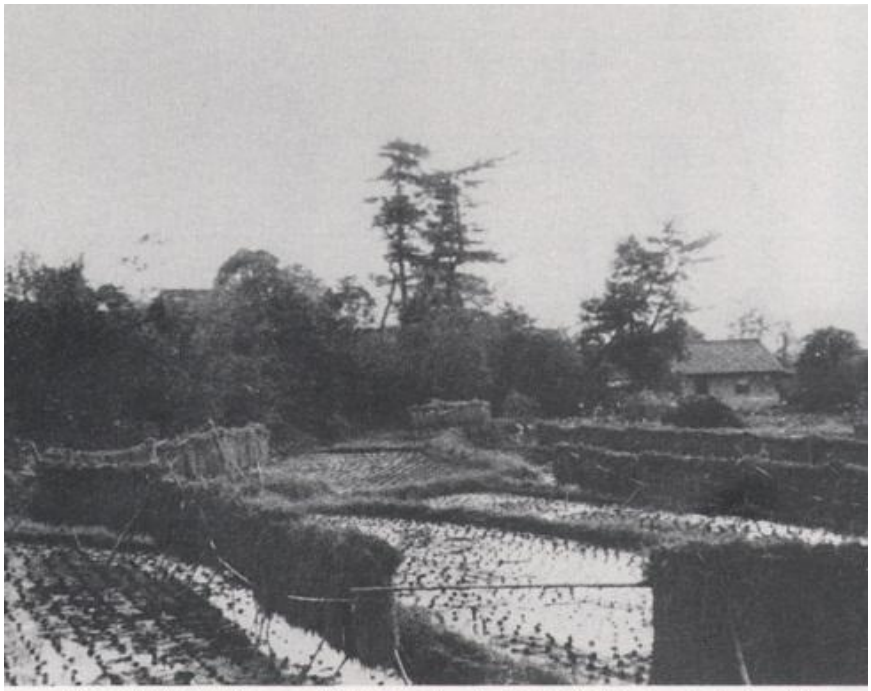
桶狭間合戦の時、織田信長が兵を率いて**中島砦**から有松裏を抜け**釜ケ谷**に集結し、桶狭間の山に戦いを挑みました。
一方、今川義元は**大脇**（豊明市）より**大高道**を通り、桶狭間の**東池**北西角を北上するこの近崎道から**おけはざまの山本陣に入りました。**

道筋として、**近崎**（大府市）より、桶狭間**伊勢池**の東側を通り、**東池**（石池）西側を抜け**大高道**と交叉して北に向かい、古戦場公園の**泉**近くに至るもので桶狭間合戦に於ける重要な道です。

現在も一部残っていますが全長約３Kmで生活道路として利用されています。

有松・桶狭間お宝カルテ

戦のみち	W-16	お宝名称	おけはざまむら **桶狭間村**
所 在 地	桶狭間		



桶狭間に最初に人が住みついたところ(セト山あたり)

1340年代、**南北朝**の争いで**南朝**が敗れ、その落武者が20名程この地に隠れ住みひっそりと暮らしていました。　しばらくして落武者狩りが下火になった頃からその人々が田畑を開墾して村が形成されてきました。

桶狭間の名前の由来は諸説ありますが、最初、**洞廻間**（ほらはざま）と言われ**桃山時代**から**江戸時代にかけ**変化し桶廻間となりました。そして明治初期に桶狭間と書かれるようになりました。いずれにしても落武者達は身分を隠して他村との交流を極力避け閉鎖的な生活をしていたと言われています。

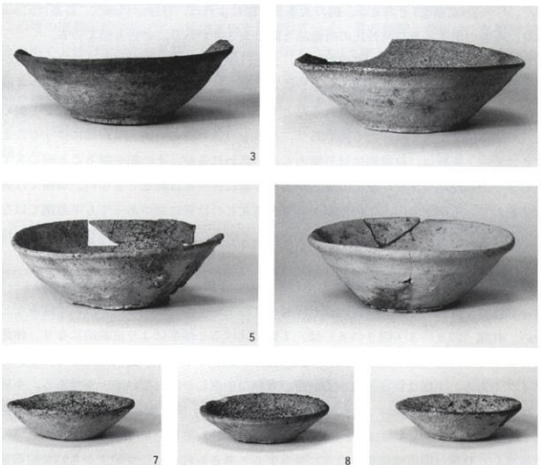
落武者が使用していた長福寺の隅にある泉

又、このような閉鎖的な気風が根付いてしまったことはここでの同姓同士の結婚が多かったことによっても判り、今でも同姓者が多いのはその名残と言っていいでしょう。

この桶狭間の名前は今川義元と織田信長が戦ったという全国に知れた歴史上有名なもので大切にしたいものです。

有松・桶狭間お宝カルテ

戦のみち	W-17	お宝名称	古窯群（こようぐん）　（有松・大高地域）
所在地	緑区桶狭間～平部（南北方向）		



出土品の山皿、山茶碗

猿投山西南麓古窯群として５００～７００年前、**有松・大高・鳴海**にまたがる南北方向に、多く分布していました。有松地域では、**清水山、清水谷、神明裏、嵐廻間、上ノ山、愛宕東、愛宕西、幕山、生山、三丁山**など、他も合わせ１１～１２箇所の古窯が発見されています。　窯の形式は、**行基焼第二形式**と言われる**登り窯**（ほか第三形式、第一形式もあります）が多く、窯の大きなものは７～１５メートルあり、一度に２千から５千個の山皿（直径：7.5～8.5ｃｍ）、山茶碗（直径：14～18ｃｍ）を焼くことができる規模であり、当時焼き物の産地として、各地に出荷されていたと言われています。

発掘調査現場（桶狭間嵐廻間）

古窯は住宅建築や土木工事現場で発見され、一部名古屋市教育委員会で発掘調査していますが、残念ながら、その後埋め戻し廃棄され残っていません。焼き物の愛好者も多く、見学用に古窯の復元が望まれるところです。

有松・桶狭間お宝カルテ

戦のみち	W-18	お宝名称	古文書（こもんじょ）
所在地	梶野　渡		

・明治７年よりの桶狭間村の諸文書

御料地拝借官有地添地譲度契約書

土地所有者名寄及び土地総計評

地方税戸数等級簿　　明治１９年、明治３２年

桶狭間村全図　　明治１８年

町村制書類、共和村合併反対運動　有松町合併に関する資料　　明治２１年～２

・土地、年貢関係

定免相極覚　元禄１０年８月（1697）免定　安政５年１１月　　（1858）

丑之年免定　元禄１０年（1697）未年免定　安政６年１１月　　（1869）

戌之年免　　定宝３年７月（1706）免定万延元年１１月　　（1860）

子之年免定　宝永５年（1705）　免定　文久元年１１月　　（1961）

寅之年免定　宝永７年１１月（1710）１礼（小出伝八郎家来棚橋猪兵衛葬儀について）

享保 20　（1735）

未之年免定　宝暦元年１１月（1751）上記についての庄屋記録帳２冊　享保 20 年 4 月 2 日

御免定　明和３年１１月（1766）江戸時代諸届書類　　13 種

免定　　嘉永５年１１月（1852）

免定　　嘉永６年　　（1853）

・検地帳等

尾州知多郡桶廻間村御縄打水帳　　慶長 13 年 10 月 5 日（1608）

同上　　地押帳　　慶安 3 年 2 月 19 日（1650）

同上　　午新田御前写帳　　享和 3 年 3 月　　（1803）

御前写帳三代目　　享和 4 年 3 月　　（1804）

知多郡桶廻間村新田検地帳　　寛文 6 年　　（1666）

知多郡桶廻間村高田町数書上帳　　文政元年 10 月　（1818）

知多郡桶廻間村子新田御高戌帳　　文政 11 年 9 月　（1828）

知多郡桶廻間村辰新田御高戌帳　　天保 3 年 10 月　（1832）

その他同様文書　　7 種

（主なものをあげてあります）

有松・桶狭間お宝カルテ

戦のみち	W-19	お宝名称	古民具（こみんぐ）
所在地	桶狭間会館、悠々庵倉庫		

桶狭間小学校の児童による研究発表会の際、地域住民の方々の提供により集められた古民具が 90 種類近く保存されています。大きなものとして**長持、脱穀機、縄ない機、機織機**や背丈以上ある**漬物用の桶**などがあります。**木鍬**（くわ）や**備中**（びっちゅう）、**株たたき**等の農機具や**石臼**と**杵**（きね）、**火鉢**、**洗い桶**等昭和 30 年代頃まで実際に使われていた道具もあります。　家紋入りの**箱膳**や昔の**米の価格表**、「桶峡合戦の話」と表した古い書物等も保存されており大変貴重な郷土資料館とも言えるものでしょう。　現在は桶狭間会館、悠々庵倉庫に保管させていただいていますが、展示保存するための保管先確保が急務です。

有松・桶狭間お宝カルテ

戦のみち	W-20	お宝名称	神明社盃状穴石（しんめいしゃはいじょうけっせき）
所在地	桶狭間神明		

　盃状穴とは岩石製品に盃状、すり鉢状に穴を人の手によって刻んだもので、村人は**五穀豊穣、安産**を祈願しながらすり刻むなど信仰に関する遺物の一種といわれています。又、子供達の草つきによって出来た穴とも言われていますが現在のところ学会では定説がないのが実情のようです。

　ここに有るのは、昔　神明社参道の入口角（後藤モータス前）にあった常夜灯の台座です。いずれにしても歳月を経て造形されたものです。

注；盃状穴（はいじょうけつ）

正方形の石の周囲にある窪みが良く判ります

有松・桶狭間お宝カルテ

戦のみち	W-21	お宝名称	桶狭間の民話（みんわ）
所在地	桶狭間地域		

桶狭間地域に古くから語り伝えられたものに「**白装束の義元**」「**ねず塚**」「**おはぐろﾄﾝﾎﾞ**」「**鞍流瀬川**」等があります。これら伝承が基になって、〇〇〇むかしばなしとか〇〇〇民話本として発刊されていいます。
従ってこれらの伝承は「桶狭間の民話発祥の素」として高く評価できるものと言え,呼名が橋、池、ﾊﾞｽ停に残されていいます。

古戦場に関するもの

・桶狭間古戦場に関するもの→発刊図書　3 件
・地蔵池、権平谷、橋等　名称・地名に関するもの　　→2 件
・名古屋むかしばなし散歩道　H6.11.22　　発行：加藤昭
　　P160：白い馬の義元
・名古屋の伝説　S59.9.3　　発行：名古屋市経済局
　　P60:第 18 話　義元の亡霊
・郷土のしらべ　S49.10.10 増補　愛知県伝説集　発行：三輪金之助
　　著者　福田祥男
　　P30:「義元の幽霊」

地蔵池･権平谷･橋に関するもの

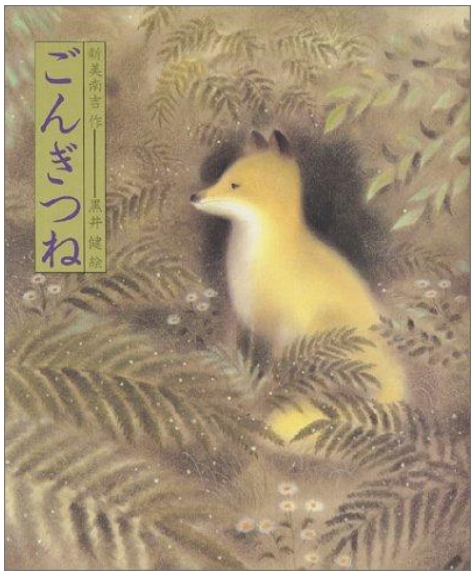
・名古屋むかしばなし散歩道　H6.11.22　　発行：加藤昭
　　P166：ごんべい谷と地蔵池
・おかあさんが集めた「なごやの民話」
　　ふるさとを見直そう　ふるさとを訪ね民話を読む会
　　P65:ごんべえ谷

有松・桶狭間お宝カルテ

戦のみち	W-22	お宝名称	「ゴンぎつね」中山家の故郷
所在地	桶狭間字寺前　長福寺境内		

新美南吉のゴンぎつね童話の最初に出てくる「**中山の殿さん**」の祖父に当る初代**中山勝時**（法名を日観と称していた）が、長福寺境内にある泉の左側に法華の草庵を建てて住んでいました。この中山氏は**暦応**（りゃくおう）（１３４０年代）南朝の落武者として**梶野、青山氏**等とこの地に流れてきました。梶野、青山氏の祖先達はこの泉の右側の山林に住み着き野山を開墾して桶狭間（当時は洞廻間）村を作りました。

中山氏は永正年間(1504 年～1520 年)**緒川城主水野氏**の後押しで、 **柳辺**｛(やなべ）岩滑｝の城主となり**柳辺・桶狭間・北尾**を領地としました。桶狭間の戦いの時には、織田方に付きました。戦国時代の兵の編成法からみて桶狭間村より**兵士１名、陣夫**（戦時に物資輸送、架橋、陣地構築などの雑役を行わせる為に郷村から動員された人々）**３名程度**が中山軍に参加していたのであろうと考えられます。この泉周辺は桶狭間村発祥の地であり、ゴンぎつねに出てくる中山氏の故郷の地であり、泉は１３４０年来絶えることなくコンコンと清水を湧き出しています。　　注；中山勝時（なかやまかつとき）



今も湧き出る長福寺の泉

有松・桶狭間お宝カルテ

戦のみち	W-23	お宝名称	歌碑（かひ）と遊歩道（ゆうほどう）
所在地	緑区南陵		

名古屋市立**桶狭間幼稚園**と**市営桶狭間荘**の西側道路沿いにあって、用水路（井桁川）沿いに有る遊歩道の出発地点に位置すします。脇道なので、幼稚園に通っている人や周辺住民、自転車や徒歩でショッピングセンターを利用する人にしか知られていないようで少し残念でが、途中に大きな柳の街路樹もあり、約５００ｍに渡る遊歩道の休憩所として利用も出来ます。　ここには３つの石で出来た椅子があり、座面に「かごめ」「あんたがたどこさ」「おさらじゃないよ」の歌詩と歌に合わせた絵が彫られています。

昔懐かしい童謡を歌いながら、親子だけでなく祖父母と孫たちとの散歩コースにもなる憩いの場所でしょう。

有松・桶狭間お宝カルテ

戦のみち	W-24	お宝名称	愛知用水地蔵池サイホン（あいちようすいじぞういけ）
所在地	桶狭間北２丁目		

呑みこみ口の向こう上方に地蔵池の水面が見える

名古屋市北部・東部から知多半島先端までは大きな河川が無く、特に昭和22年(1947)の**大干ばつ**をきっかけに、木曽川から水を引こうと国に働きかけました。その結果、昭和32年愛知用水工事を開始し、昭和36年(1961) 9月30日は**木曾御岳**の麓「**牧尾ダム**」を水源として木曽川の水が知多半島に届けるという歴史的な事業となったのです。現在では、地域の田畑、市町の家庭、工場で利用され不可欠な用水となっています。

サイホン出口側から地蔵池側を見る

この用水は、東郷町から緑区に入り、緑区と豊明市の境界付近を蛇行して地蔵池サイホンを経て、**水主ヶ池**付近で大府市へと抜けており、土地の高低差の大きい場所や池は、トンネルやサイホンを利用して通水していて、緑区では数箇所のサイホンがあります。

有松・桶狭間お宝カルテ

戦のみち	W-25	お宝名称	有松：ホーロー看板館（かんばんかん）
所在地	有松町橋東南 2-2（国道１号線桶狭間交差点南東角）		

館内は半世紀をも遡った雰囲気で楽しさこの上ない

コンクリート角型２階建ての重たい鉄の扉を開けると、そこは別世界。ナポレオンスタイルの**仁丹**、美空ひばりの**金鳥・蚊取り線香・カルピス・グリコ・酒・塩・練炭・たばこ・カメヤマろうそく**…様々なホーロー看板が壁いっぱいにあります。いいえ、看板ばかりでなく昔の子供の**おもちゃ、標半てん、ジャンパー、ポスター、はては洗濯機からアイロン**まで。古いものは**“何でも”**あるのです。

ホーロー看板とは、「鉄の板にガラス質の**うわぐすり**（釉薬）を塗って高温で焼き付けたもの」で、明治の後半から昭和 30 年まで広く普及した**広告媒体**です。　当主佐藤さんは印刷業の傍ら、人生 50 年、「**庶民が使っていたけれど、だんだんと捨てられ、無くなっていくもの**」を集め残そうと思われました。これが有松「ホーロー看板館」で、三つの道のなかでホッと癒される憩いのところなのです。参観したい方は電話予約が必要です。

入口前の様子

有松・桶狭間お宝カルテ

戦のみち	W-26	お宝名称	万灯会（まんとうえ）
所在地	桶狭間寺前（大池岸周囲）		

万灯会は桶狭間の戦いで命を落とした人々、約３０００人の**御霊**(みたま)を慰霊しようと、平成１５年(2003)から桶狭間小学校の生徒さんによる手作りの３０００個分の灯ろうを大池の周辺に灯し、**桶狭間古戦場まつり・慰霊祭**の一環として行われるようになりました。

毎年５月１９日前直近の日曜日、夕暮れ時の６時から一斉に灯ろうに火がつけられ午後８時の終了時まで大池の周りが３０００個余の灯ろうによって幻想的な世界となります。